

論文内容の要旨

専攻名	多文化社会学 専攻	氏名	CHEN ZHIHONG (陳之虹)
題名	中国の社区の変容と社会的ネットワークに関する一考察 —C 社区の事例を中心に		
<p>本論文の目的は、単位制の解体を背景として、単位制社区における社区内のネットワークを考察したうえで、個人化理論を参考とし、社区と個人の関係性を明らかにすることである。</p> <p>第 1 章では、ベックの近代化、個人化の理論を利用して、中国の単位制社会から社区制社会への変容を分析した。同時に基礎社会において、個人と集团の関係を説明した。第一の近代の個人化では、人は家族・職場・コミュニティといった安定的な中間集団に「再埋め込み」されるになった。第二の近代では、中間集団が安定性を失った。単位制は、個人を伝統的な血縁と地縁社会の束縛から解放させ、個人に安定的なライフコースとアイデンティティを付与した。しかも、個人は、家族、職場、コミュニティといった安定的な中間集団に「再統合」ことができる。</p> <p>現在の中国社会における、異なる階層、身分、職業の住民が一つの社区で生活しているのはすでに普通のことになった。その結果、社区は、どのように有効に住民を統合し、生活・精神両方から支えられるのか、今後社区の発展にとって重要な課題になった。</p> <p>第 2 章では、調査地の C 企業の歴史を紹介した。1977 年から、中国政府はカラーテレビ事業の立ち上げを図り、国外から技術の導入と政策支援を求めた。1979 年、咸陽市で C 企業の建設が始まり、1982 年 12 月から正式に生産を始めた。当時、改革開放の勢いに乗り、C 企業は繁栄期を迎えた。しかしテレビ技術の革新により、C 企業の製品はだんだん市場の需要に後れてしまった。中国の一般的な単位と同じように、1980 年代から C 企業は「職住合一、生産生活合一」の空間構造を形成した。C 企業は政治と経済機能を担うだけでなく、社会生活、精神文化などの面からも機能を果たし、「企業が経済機能以外の社会機能を担当する」という単位特徴が見られる。</p> <p>C 企業の職工（個人）は単位から庇護を得て、強く単位と繋がっていた。21 世紀に入った後、製品が時代遅れになり、単位の経営は困難に陥った。職工の生活はリスクに巻き込まれた。C 企業の職工は学歴が低く、低・中級社会経済階層が多いため、リスクに対応する能力が低かった。特に単位という中間集団が機能できなくなった状況下で、社区が単位の代わりに中間集団の役割を担う必要があった。C 企業の 40 年の歴史を踏まえたうえで、単位から社区までの全体図、また個人と組織の関係を分析した。</p>			

第 3 章では、家族を一つの視点として、個人と家族の関係性から C 社区の特徴を分析した。本章では、旧住民の家族（職工家族）と外来住民の家族を分けて分析する。調査から、旧住民の家族は主に夫婦世帯が多いことが見える。ほとんどの旧住民は主に企業の職工であり、中年と高齢の夫婦が多い。子どもはすでに成年になり、社区を離れて外で自分の家を買った。単位家族について、「双職工」という、夫婦は共に一つの単位で働く形態はよく見られた。旧住民の家族が C 単位に入るきっかけは主に二つあり、一つは、上の指示による C 企業への転職、もう一つは 1980 年代の職工募集を通じての C 企業への就職である。子ども達はほとんど単位の学校に通っていた。それは単位の福祉機能の体现である。

社区の家族は介護、子育てにおいて、「効果的」な役割を果たしている。家族の成員についての定義は結構柔軟である。卒業、結婚、子どもの出産など、ライフコースの転換によって、家族の構造は変化するのはよく見られる。個人化の影響で、個人が家族への依存が増加した。また個人化に伴い、個人意識の尊重、個人の選択が拡大している。家族は人が安心できる場として、個人の保護者として期待されてきた。個人は新たなライフスタイルを探求する。第 4 章では、公共性の理論を参考にし、C 社区の公共空間に視点を当て、社区と住民、また住民間の関係を分析した。旧住民と外来住民の関係、外来住民間の関係を分析し、過去の単位時代における、「単位と単位外部」のような明確な境界線を失った。それは社区運営の方式を変化させた。公共空間における住民のトラブルと不満も増えてきた。改革に伴い、社区住民の階層、仕事など属性が「異質的」になったことにより、住民間に新しい関係性が築かれた。単位の「古い公共性」から社区の「新しい公共」へと転換のうちに、個人の公共性への依存性が高まる。

第 5 章では、論文の総括に当たる章である。社区中に存在する多様なネットワーク、個人、社区といった三者の関係性を分析した。最後に、社区にある問題点について自分の考察結果を説明する。同時に、中間集団、住民ネットワークの視点から社区の変容を説明した。

以上の内容を踏まえて、C 社区は単位の労働者の生活共同体から、異なる階層の人が生活している社区となった。しかも単位が撤退した後、旧住民が単位への依存性が薄くなる。住民の流動により、旧住民と外来住民間には多様なネットワークが形成した同時に、公共領域で住民のトラブルも増えている。住民の主人公意識を喚起するため、住民ネットワークの活用と政府力が必要である。単位時代から残される「資本」を継承し、活用することで、C 社区の価値をもう一度発見することは重要だと思う。

今後の課題として、一つでは、社区の新たな意義を発見するため、「上」から政府行政の支援をどのように利用すべきか。またもう一つでは、「下」から住民間のネットワーク、NPO の活用に期待されていることである。

要旨

本文是以单位制解体为背景,在对社区内的关系网进行考察的基础上,并参考个体化理论,对社区和个体之间关系进行解释的文章。

第1章运用了现代化和个体化理论分析了中国的基层社会。单位制将人从传统的血缘,地缘社会的束缚中解放出来,赋予人们稳定的生活状态和个体属性。个人在家庭,职场,社区这几个安定的中间集团中获得第二次统合。目前在中国,不同阶层身份的人住在同一社区成为常态。怎样有效统合居民成为今后的课题。

第2章介绍了调查地C社区的历史。改革开放初期,国家为了发展中国彩色显像管工业成立了C单位。1980年达以后达到企业发展顶峰。单位除了经济功能外,还承担着度职工的社会机能。企业职工在长时期内得到单位的庇护,与单位有很强的依附关系。但21世纪后由于产品技术落后,企业经营困难不能承担中间集团的责任。职工与企业 and 社区的联系也逐渐淡薄。

第3章以社区居民的家庭为视点进行分析。调查发现老住户家庭以夫妇两人家庭为主,子女在外工作且大多为双职工家庭。整体看,社区内家庭在老人的看护和育儿上发挥着很大的效果。同时伴随孩子上学,结婚,工作等人生阶段,家庭成员的构成也随之变化。随着个体化进行,家庭越来越重视个人的选择以及新的生活方式的探寻。

第4章以社区公共空间为考察点,分析了住户之间的关系。随着人员的流动以及外来人员的增加,社区的运营方式也发生了变化。居民之间的矛盾也增加。社区成为不同阶层居民居住的场所。

第5章是全文的总结。分析了个人,社区,关系网之间的关系。

通过以上内容,C社区从之前单位工人居住的共同体成为了各阶层混居的社区。单位解体后,个人对单位和社区的依赖性也减弱。应该注重居民主人翁意识的培养,并且充分利用单位时期的资源,发挥社区的价值。今后的课题,一是要发挥政府的统合力,再者要从基层利用公益组织的力量。